

資源のみち委員会（第 4 回）議事録（案）

日 時 平成18年10月24日(金) 13時30分～15時30分
場 所 財団法人下水道新技術推進機構 6階会議室
出席者 委 員 長 津野委員
委 員 貫上委員、堀尾委員、横山委員、大谷委員、増田委員、清水委員、
堀江委員、尾関委員、小菅委員、竹中委員（欠席：高橋委員）

議 事

- 1．第3回委員会までの総括及び今後の進め方
 - 2．下水道の有するポテンシャルとその活用状況
 - 3．資源のみちを推進するための推進方策のイメージについて
-

議事概要

基本認識について

基本認識に「下水道施設は、高水分含有型廃棄物の処理・リサイクルの拠点として、都市・地域のバイオマス利活用を高水分・低水分物質に峻別して効果的に行う上で重要な役割を果たすことが可能である。」を追記すること。

推進方策について

資源のみちの推進にあたっては、推進方策のコンセプトや数値目標を示すべき。
資源のみちの推進方策の評価方法についても検討すべき。B / C < 1となる場合でも、地球温暖化対策等の視点から推進すべき施策も考えられる。
またこのような評価方法を関係者間で共有することも必要である。
CO₂排出量の削減による効果（排出権取引の視点）も検討を加えること。
下水処理場のエネルギー自立の基本的な考え方について明確にすべき（地域へのエネルギー供給、省エネルギー）。
下水道事業の立場から推進方策を講じる上での対応や課題を整理すべき。現在、バイオマス利用等を事業化している事例から課題等を整理すること。
ケーススタディの実施を通じて課題等の解決方策も考えられる。

関係省庁と連携について

資源のみちの推進にあたっては、関係省庁との連携や官民連携を念頭におくこと。

資源のみちの推進にあたっての関係法令や関係省庁の助成制度等を整理すべき。

農水省が進めるバイオマス総合戦略との関係、連携について整理すること。